# 楽友会通信　No．60

2015／2／25　指笛楽友会発行

♪♪♪♪　♪♪♪♪　♪♪♪♪

—目　次—

1．2015年度楽友会総会報告
2．会員だより
3．指笛音楽を伝える（創刊時の楽友会通信より）

## 1．2015年度楽友会総会報告

議事　2014年度事業報告
2014年度会計報告と同会計監査報告
2015年度事業計画案の承認の件
2015年度予算案の承認の件
役員改選の件

### 2014年度事業報告

（1）1月12日（日）2014年度総会・新年会の開催（於Uスタジオ）

（2）6月24日（火）「第4回みんなのおんがくかい」（NPO法人健生会主催）童謡館東京と共に7名で4回連続出演。（於練馬区生涯学習センターホール）男性は今回初めて揃いのジャケットを着用。

（3）7月13日（日）「第40回善意の輪をひろげようチャリティーショー」（東京善意銀行友の会主催）静海先生と会員9名が参加。リサーチ合奏団と楽友会の合同演奏は盛り上がった。（於新宿三井ビル55広場）

（4）10月19日（日）「第37回練馬まつり」MMC（指笛・草笛・口笛）と合同参加。練馬区の一大イベントで大変な人出。14名出演中9名が楽友会会員。（於豊島園、前年は雨天中止）

（5）11月　1日（土）「指笛音楽80周年記念コンサート（研究発表会）」（指笛楽友会主催）約350名の入場者。詳細は前No．59を参照。（於練馬区立文化センター・小ホール）今回初めて記録DVDを会員の発案と協力者のご協力により全会員に贈呈。

（6）25の会（指笛練習と役員会）於Uスタジオ

（特記事項）4月26日　練習後の役員会での議論：男性ユニホーム作り、80周年記念伴奏CD制作、指笛の吹き方（カラー版）作成など。

5月24日　米国からメミグレース先生参加。メミ先生の奏法、練習法、活動状況、大三先生の生き方、ご自身の指笛人生について親しく話してくださる。

（7）80周年記念コンサート練習　6／27　7／27　9／27　10／18
練習と役員会が同日のため、時間調整が問題となる。

（8）楽友会通信発行　56号（2月）57号（5月）58号（8月）59号（12月）

（9）年賀状（発表会の写真入り）発送

＊総会・新年会案内への返信より

有吉憲行・潤子；草笛演奏、指笛演奏の依頼があって、ボランティア活動に忙しい日々を過ごしています。

片井久夫；発表会に出られませんでした。9月には出演させていただきたいと思っています。

藤好清晴；わらべの会（童謡のコーラス）に参加し、ボランティアに出かけています。菊作り、家庭菜園のための落葉集めをして、腐葉土作りをしています。

川上勝二；定年後実家の浜松に帰って来ました。妻の介護や病院通いで淋しい限りです。家庭菜園を楽しみつつ、子供たちに航空教室等を開いたりしています。指笛を又、練習します。

**2015年度事業計画**

（1）2015年度総会及び新年会の開催；1月12日（月）10～12時　役員会
13～15時　総会・新年会

研究発表コンサートの演出多彩化、日本指笛協会（仮称）の商標登録、指笛コンクールの開催問題など議論が盛り上がり、定刻を2時間近くも超過。Uスタジオさんのご好意に感謝！

（2）**指笛音楽81周年記念コンサート（研究発表会）の開催；9月19日（土）**
9時（準備）から17時（退出完了）まで。練馬区立文化センター小ホール

（3）**25の会**（毎月1回開催）の充実
役員会・練習（予定日時は別掲）
練習に打ち込む、会員同士の親睦・融和を図る、情報交換を密にするなどにより、指笛音楽の質の充実・発展・普及を目指す。
新会員を勧誘し、きめ細かい指導に努める。

（4）各種演奏会・ボランティア活動に出演
**「第41回善意の輪を広げようチャリティーショー」**（東京善意銀行友の会）
開催日時未定

「第５回みんなのおんがくかい」（練馬区内６団体）練馬区立生涯学習センター　６月25日（木）

「練馬まつり」10月18日（日）

「さくらフェスティバル」所沢航空公園でパフォーマンス、４月５日（日）

「野原でアコーデオンと指笛」内容未定

（５）将来の課題

「指笛音楽コンクール」

開催の実施の要領・実施の可能性など検討委員会を設置

練習メニューと段階的スキルアップ

「日本指笛協会（仮称）」の商標登録

（６）楽友会通信４回発行

２月（中澤宏）５月（武井）８月（有賀）12月（有吉）

（７）年賀状；代わるものがないか知恵を出し合う

＜25の会開催予定＞

練習・役員会

２月14日（土）　３月22日（日）　４月18日（土）

５月16日（土）

10月24日（土）　11月14日（土）　12月12日（土）

研究発表会練習・役員会

６月20日（土）　７月26日（日）　８月29日（土）

９月12日（土）

＊　発表会の練習日はピアニストの都合で変更になることがありますので、事務局（０３－３９２３－２４１５斉藤方）に確認してください。

時間；13～17時（通常利用）、なお、Ｕスタジオさんのご好意により、初心者練習のために17～18時を提供していただいた。

場所；Ｕスタジオ

練馬区東大泉６－３４－２８　陵雲閣マンション半地下１階右奥

西武池袋線・大泉学園駅（徒歩５分）

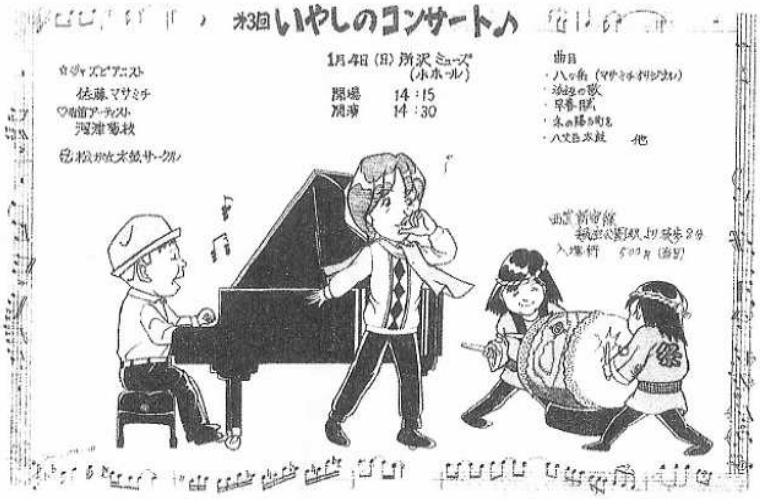
ＴＥＬ／ＦＡＸ　０３－３９２４－６４５５

## ２．会員だより

河津菊枝さん

１月４日　第３回いやしのコンサート

出演　佐藤マサミチ（ジャズピアニスト）
　　河津菊枝（指笛アーチスト）
　　松が丘太鼓サークル
所沢ミューズ（小ホール）
開演　１４：３０




第１部　佐藤マサミチ（オリジナル曲）
　　佐藤マサミチと河津菊枝
第２部　和太鼓
　　佐藤マサミチ（オリジナル曲）
　　佐藤マサミチと河津菊枝

ピアニストが山梨・長野で演奏するときに私も呼んでくれ、紹介してくれているので、年１回はお返しに所沢でジョイントコンサートをするようになって３年。少しずつ定着してくれればと思っています。今回は１００名の方々に聴いていただきました。

今回は、日本著作権協会に出しましたが、プログラムでひっかかったのは「雪の降る町を」のみで、税込み 686 円の請求でした。

次回は、初めて夜「ホテルのラウンジで聴いてくださる気分で」という私の思いが通じるか、という一つの挑戦です。**２０１５年１２月１３日（日）１８：３０　開演予定**

＜河津さんのコンサートへの声より＞

新春早々のコンサートを開かれおめでとうございます。クリスマス会でもとても素晴らしく、心楽しく聴かせて頂きましたので、今日の会を楽しみにさせて頂いておりました。私は貴女を存じ上げてより、主人の母校・慶応義塾の創設者・福沢諭吉翁が遺された「人間として一番嬉しく楽しいことは、一生続けられることを持つ事です」とのお言葉を思い出しております。ますますのご活躍を、よいお年であられますようにお祈り致します。２０１５．１．４（Ｔｓｕｎｅｋｏ　Ｓｕｇｉｍｏｔｏ）

**＜研究発表会ＤＶＤ贈呈への喜びの応答などから＞**

**青山久美子さん（河津さんへの個人的私信より）**

11 月の指笛発表会のＤＶＤをお送り頂きありがとうございました。不参加の者にまでプレゼントして下さることになったとのことで、大変申し訳なく恐縮しております。介護５年目に入っている義母の容態が急に悪化し、入院させるべきところ、最後自宅で看取ろうと家族で決め、24 時間体制の在宅看護を開始して４ヶ月が過ぎました。ゆとりのない毎日で、お礼がすっかり遅れすみません。指笛はもう１年近く吹いていません。皆さまにお世話になるばかりですが、よろしくお願いいたします。

**大平　馨さん**

私は歯の関係で指笛はしませんでしたけれど、４０年位前から田村先生ご夫妻と親交があり、大三先生が、指笛はやらないでいいから是非会員になれ、といわれるので、会員の末席を汚させて貰っている者です。今後ともよろしくお願いします。

**塩谷彰宏さん**

私、１２月２～３日代々木の国立オリンピック記念青少年総合センターで、全国レクリエーション代表者会議があり、青森県代表として出席してきました。
６年後のオリンピック・パラリンピックに向け、選手養成はもちろんですが、日本全国のスポーツ・レクリエーションをどのように盛り上げていくか、そして、オリンピックが終った後に「オリンピックレガシー（遺産）」としてなにを残せるか。高齢化社会を迎えた今、レクリエーション協会としてどう取り組んでいくか。普段、あまり運動をしていない人たちをいかに掘り起こして運動に取り組んでもらうか、そのことがひいては、医療費削減にも繋がっていくのではないか。そのための楽しい魅力ある事業を組んで行くにはどうすればいいか、等について話し合ってきました。
青森県の「短命県返上」にも、少しでも貢献していきたいと思っています。

**村山壮人さん**

**“すぐそこ新座”春まつり**への参加
**平成２７年４月４日（土）、５日（日）　午前１０時から３時まで**
＊ 雨天にかかわらず実施
場所　**新座市総合運動場**（新座市本多２－８－１６）

昨年は、河津さん、奥津さんの友情出演もあり、菜の花畑をバックに、思い思いの曲を演奏しました。途中、幾度も「指笛の吹き方」講座を開き、２日間で１００人くらいが挑戦してくれました。
余越さんのピアノ伴奏でもいいし、自前のＣＤ持参くださってもＯＫです。
交通の便、当日のスケジュール等は後報されてきますので、参加希望の方はご一報ください。（新座市新堀２－８－２０　村山壮人）

## ３．指笛音楽を伝える（創刊時の楽友会通信より）

**＜Ｎｏ．１　1998. 11.25 発行＞**

**『遠い思い出』　田村大三（指笛音楽創始者）**

昭和９年（1934）５月 25 日夕、私は「指笛」に全生命をかける決心のもとに、神田神保町の四つ角に立ったのです。それから 65 年、只々そのことのために生きぬいて参

りました。なんと感謝なことでしょう。

普通の人がいきなり街頭に立つということは、相当の覚悟が必要だと思いますが、クリスチャンの一人として、それまで何十回となく街頭の一角に立って、所信を述べたことのある小生としては、何の苦もなく実行に移すことが出来たわけです。

或る夜のこと、少し晩酌を飲みすぎたようなおじさんが立ち止まり、「お前、口に何か小さな笛でも隠してるんじゃないのか」と言うのです。しかもそう言っただけでなく、彼は私の口の中を色々の角度から覗き込んでいました。或る時は、指笛を普及することは不衛生に陥りませんかネ、などと言った人もおりました。しかし何と言っても、「我これがために生まれたり」の確信のもとに今日を迎えることが出来、小生亡き後も指笛の灯は消えないことを思い、只々感謝で一杯です。

或る人は指笛を「シテキ」と言い、或る人は「サシブエ」と読み、また或る人は「ユビテキ」と読みました。指を「ユビ」と読んだら、笛を「フエ」と読んで下さったらいいのに・・・と思ったことがありました。

英語の場合、フィンガーフルートと言いたいのですが、フィンガーホイッスルと言う人もおります。

いずれにせよ、指一本を銜（くわ）えて、それぞれ自らの“心”を伝えることの出来る喜びを、自分自身のものに出来たことを、心から悦び合いましょう。

**『私と指笛』　田代順一（本会・前会長）**

指笛音楽との最初の出会いは、昭和 22 年の台北市公会堂における「田村大三指笛音楽会」でありました。

「指一本の音楽」というキャッチフレーズに憧れ、日本に引き揚げてすぐに阿佐ヶ谷のバラックに先生を訪ねたのが動機でした。その後中野に移られた「指笛の家」を探し当てたときは、当時ラジオ番組で放送されていた「鐘の鳴る丘」とはたいへん異なったイメージであった覚えがあります。

先生の公演の手伝いの最初は、神田の共立講堂で「秋田の夕べ」を秋田県出身の芸能人を先生が中心となり、一堂に会しての公演であったと記憶しています。東海林太郎やモダンバレーの石井漠など錚々たる人達の出演でした。「指笛音楽発表 20 周年、30 周年、35 周年」等の記念公演会を通じての度重なる手伝いにより、指笛音楽の素晴らしさに取り付かれてしまいました。特に 45 周年の「指笛と吹奏楽」の公演は素晴らしかったと、現在でも深く記憶しています。

先生は「指笛を吹ける人は選ばれた者である」或いは又「指笛音楽は聴く人の心に感動を与える演奏に心掛けることが肝心である」という信念で指導をなされてきています。このようなことは容易にできることではありません。然し「君の吹いているのは口笛で指笛の音色とは全然異なる」と苦言を呈され、私は指笛の音色に達するのに数年を要し

ました。下唇の張りの大切さを強調するのは、自分のこの経験によるものです。指笛の音色の素晴らしさは、生の指笛を聴かなければ、なかなか実感として捉えられないと思います。

平成9年10月から、よみうり・日本テレビ文化センター新宿で「田村大三の指笛入門」講座が開かれています。開設された経緯と趣旨は、文化センターの責任者の方が田村先生の演奏を聴かれ、「指笛音楽を日本の文化」として存続継承していくべきである、との判断に基づいた結果であると承っています。文化センター新宿の活動が「波紋」となって広がっていくことが念じられます。

また、毎月25日に先生のご自宅の集り<25の会>は夫人の静海先生の心づくしで、指笛を介しての各種分野の方達との交流の場としての貴重な一時であると思います。

「指笛音楽創始者」である田村大三先生と面識を得たことは、私の人生に於いて大きな収穫であることを感謝している次第です。

<Ｎｏ．２　1999．2.25発行>

**『田村大三に感動』　山本静海（しずか）**（田村大三夫人）

楽友会からテーマを寄せられ、「田村大三に感動」と言う事ですが、その感動は田村大三のあらゆるステージの演奏から私は受けています。継続は力なりと言う事を一口で言い切る事の出来ない大きなものの本質が、田村大三の指笛の中にある事を私は知ります。21歳からこの道65年、12歳で指笛を覚えたのですから合わせて74年。私はそのステージを見て、この方は正に指笛を吹くために生を受け、そして天からそのため必要とされる一番・一番を、二番とは言えない大きなものを恵みとして得ているのだと、つくづく知らされるのです。

体中が“これが指笛だぞ”と、この方は80歳を過ぎる人並みはどうでもよいのです。生かされている限り指笛を生かそうと、今が大切、今しか自分はない、これで精の尽くせる限り我儘に指笛吹きとして生きようとしているのが田村大三です。

また私が思うに、つくづく「今」と言う事に田村大三の凄いものがあって、そのため周囲は後先都合がつかなくなろうが、「今」を大きくうなずく以外なくされてしまうのです。それほど「今」と言う瞬間に起るあの音色、あの感動、これこそ大きな喜びの感動です。そしてこれこそ生きる最高の喜びと思いながら、この日々が一日でも長く続くようにと念じて止みません。

**『私と指笛』　水沼武彦　（本会・副会長）**

「指一本の音楽」という小さな広告（キリスト新聞）に引きつけられたのは18歳のときであった。ピアノを習いたくも学校に一台しかない貧しい時代。指ならばある、しかし、どうするのかさっぱりわからないながら、早速手紙を出したのである。「指笛の吹

き方」が送られてきた。鏡を見ながら夢中で取り組んだ。一週間ほどして音が出たのである。そりゃ嬉しいのなんのって。しかし、この音が本当の指笛の音かどうかわからない。それが問題、よわった、テープレコーダーのない時代である。その事をまた手紙に書いた。当時は東京まで4時間もかかった、金もなければ時間もない貧しい高校生、上京するわけにもいかない。そういう私を心配して、田村先生ご夫妻は、演奏会のため太田市まで来られたというので、ここ群馬の藤岡にまで、足をのばして下さったのである。そのおかげで、私は初めて本物の指笛音楽を聴くことができた。忘れもしない賛美歌310番「静けき祈りのときはいと楽し・・・」であった。胸は高鳴り、頬はほてり、身体は震えた。こんな体験は未だかつてしたことはなかったのである。それは、指笛の素晴らしさと師の愛にふれたからであった。それ以来、指笛は私の内にひびき続けているのである。

「指笛音楽発表20周年記念公演会」の頃である。渡米を企画していた私は、指笛をもっと学んでおきたいと思い、先生に相談したところ快く承諾して下さり、お宅に居候をして学ぶことになった。そして公演会準備を手伝う機会となったのである。然し、余分な部屋があるわけではない。最初は応接間に寝ていたが、何かと不都合である。そこで、先生は考えた。風呂場を私の寝室に兼用できるように作る、というアイデアである。先生と二人で作り上げた。有り難いことであった。よくも居候をOKして下さったものだと今にして思うのである。

年月は流れた或る日、「NHKのオーディションを受けてみないか」と先生に言われて、その気になった。当日、第1テストに合格すると第2テストに進むのである。その第2テストの中で、「1分間で自分をアピールせよ」ということがあった。私はその中で「指笛音楽の喜びを一人でも多くの方に伝える使命を感じている。」と言った。昨年、韓国とモンゴルに行って、国際交流することができたが、その時、指笛音楽を日本の文化の一つとして紹介して喜ばれた。モンゴルの伝統芸術である馬頭琴と田村大三先生の創始になる日本芸術文化の指笛との共演は意義あり、楽しく、忘れることはできないのである。私達は指笛音楽を日本文化の一つとして受け継ぎ、育てる使命を持っていると思うのである。

＜編集後記＞　2月号の編集を新たに拝命いたしました。どうぞよろしくお願いします。至らない編集者ではありますが、会員の皆さまのご助力をいただきながら、編集の役目を果たしてゆけるよう努力してまいります。この通信が会員の皆さまの楽しい交流の場であったらいいな、と思っておりますので、指笛音楽の活動や近況などを、お寄せくださいますよう、お願いいたします。（中澤宏則）